

# 山形県立鶴岡工業高等学校 定時制の課程 いじめ防止基本方針

## 1 はじめに

本校では一人ひとりが自信と夢を持ち、輝く将来を実現できる教育活動に取り組んでいます。教育目標の一つに、学業と就労の両立を図り、心豊かでたくましく生きる生徒像を目指しています。今、いじめ問題で生徒一人ひとりの将来と夢が台なしにされることのないよう、われわれはいじめが絶対に許されないことと認識して、生徒がいじめのない安全な学校生活を送るために取り組まなければなりません。

## 2 いじめの定義と判断

### いじめとは

生徒に対して他の生徒がいたずら書きや金品を要求するなどの心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、その行為をうけた生徒が心身の苦痛を感じているものをいいます。

### いじめの判断

表面的・形式的にすることなく、いじめられた生徒の立場にたっておこなうとともに、特定の教職員のみによることなく学校いじめ対策委員会で組織的に行います。

いじめの様態は多岐にわたります。そのため被害生徒の心に寄り添って状況に応じて適切に対応します。

- ・けんかやふざけあいであっても、見えないところで被害が発生している場合。
- ・インターネット上で悪口を書かれた生徒が、その事実を知らずにいる場合。
- ・好意からおこなった行為が、相手の生徒に心身の苦痛を感じさせてしまった場合。

## 3 いじめ防止のための取り組み

### 教職員のいじめ防止のための取り組み

下記のことを基本姿勢として取り組みます。

- ①全教職員が「いじめは人間として絶対に許されない」との共通認識を持つ。
- ②生徒と教職員間でのコミュニケーションと良好な人間関係の構築に努める。
- ③「どの生徒もいじめの被害者にも加害者にもなりえ、またどの学校にも起こりうる」との認識の下、普段から生徒の状況の変化等の把握に努める。
- ④いじめを正しく理解し対応するための校内研修会等の機会を設定する。

### 生徒の育成の取り組み

いじめをしないだけでなく、いじめが起こった場合でもそれを止める勇氣、知らせる勇氣をもった生徒の育成を目指します。そのために生徒に次のような力を培います。

- ①他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操力と他を尊重する態度。
- ②互いを認め合いながら、建設的に調整し解決していく力。
- ③ストレスを感じてもそれを自己の力で解決する力。
- ④あるがままの自己を認め、それを肯定していこうとする前向きな態度。
- ⑤規則ある生活リズムと主体的な学業および就業の生活を確立する習慣。

### 具体的な取り組み

以下のことを具体的に取り組みます。

- ①生徒理解に基づいたわかりやすい授業。
- ②球技大会や夜学祭等の生徒会行事。各種ボランティア活動の活性化。

- ③保健便り、保健講話等の各種講話、面談やスクールカウンセリング等。
- ④キャリア教育・就労指導。生活体験発表会や課題研究発表会等の各種発表。
- ⑤生活リズム・挨拶運動週間。部活動。生徒会によるスローガン呼びかけ等。

#### いじめ対策委員会による取り組み

本校ではいじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処を組織的にを行います。また事実関係の把握、いじめであるか否かの判断を組織的にを行います。

##### 構成メンバー

- ① 校内：校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、保健主事、養護教諭、各担任、生徒部教職員。
- ② 校外：PTA代表、学校評議員代表、スクールカウンセラー。
- ③ 事務局：教頭、生徒指導主事、保健主事、養護教諭。

##### 具体的な取り組み

- ① 学校いじめ防止基本方針に基づく取り組みの実施や具体的な年間計画の作成・実施・検証等。
- ② いじめの相談・通報の窓口として対応。
- ③ いじめの疑いに関する情報の収集と記録と共有。
- ④ いじめの疑いに係る情報があつた際の迅速な対応。

## 4 いじめの早期発見

#### いじめを見逃さず、気づく努力と工夫

日頃から生徒との信頼関係を構築し、生徒が示す小さな変化や信号を見逃さず、相談しやすい雰囲気を作ります。

#### 具体的取り組み

- (1) 定期的に生徒にいじめアンケートを実施し、情報の把握に努める。
- (2) 学期ごとに面談週間を設け生徒と面接を行い、生徒理解と情報の収集に努めます。
- (3) 日頃から家庭との連携を密にする中で、定期的に保護者にいじめチェックシートを配布し活用してもらう。

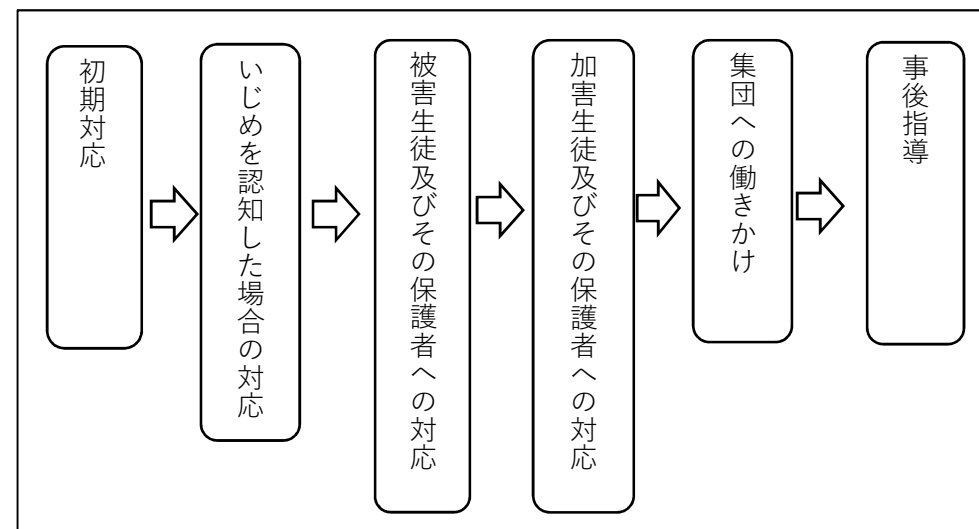
## 5 いじめに対する措置 早期対応と組織的対応

#### 基本姿勢

以下のことを基本姿勢に対応に当たります。

- (1) いじめ対策委員会を中心に教職員全体で対応する。
- (2) いじめられた生徒を徹底して守り、その生徒の不安や心配を取り除くことを最優先に対応する。
- (3) 個人情報の取り扱い等のプライバシーに十分配慮する。

#### いじめ対応の流れ



## いじめの解消の要件

- ① いじめに係る行為が止んでいること。
- ② 被害生徒が心身の苦痛を感じていないこと。

## 6 教育的諸課題から配慮すべき生徒への対応

学校として特に配慮が必要な下記の生徒については、日常的に、その生徒の適切な支援を行うとともに、保護者の連携、周囲の生徒に対する必要な指導を組織的に行います。

- (1) 発達障がいを含む障がいのある生徒。
- (2) 海外から帰国した生徒や外国人の生徒。
- (3) 性同一障がいや性的指向・性自認に係る生徒。
- (4) 被災生徒。

## 7 インターネット上のいじめへの対応

### インターネット上のいじめについて

スマートフォンなどの情報機器を用いて、インターネット上のウェブサイトの掲示板などに、特定の生徒の悪口や誹謗・中傷を書き込んだり、画像や動画を掲載したり、メールを送ったりする行為をいいます。これ以外にも下記場合があります。

- ① メールでのインターネット上のいじめ。
- ② SNSを利用したインターネット上のいじめ。

## インターネット上のいじめの未然防止のための取組み

未然防止のために、下記の取組みをおこないます。

- (1) 情報モラル指導の徹底と教員の指導力の向上。
- (2) 家庭・地域、PTAとの連携。

## 早期発見・早期対応

下記の取組みを行い、早期発見および早期対応につとめます。

### (1) 早期発見への取組

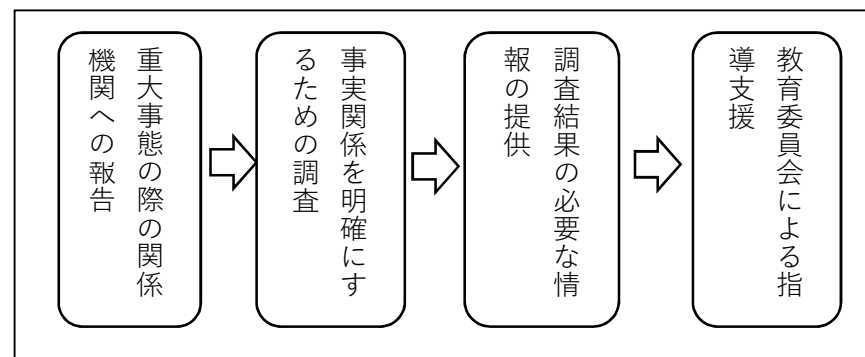
- ① インターネット上のいじめのサインをキャッチする。
- ② インターネット上のいじめについての相談体制の整備。
- ③ 学校パトロール等の実施。

### (2) 早期対応への取組

インターネット管理者等に対して速やかに削除を求めるなど必要な措置をとる。

## 8 重大事態への学校による対応

### 基本的な対処の構造



### 調査の趣旨について

調査はその重大事態に対処するとともに、同種の事態の発生防止に対応するために、適切な方法により事実関係を明確にするために行います。

### 調査を行うための組織について

県教育委員会が調査主体となる場合と学校が調査の主体となる場合があります。

## 9 評価と点検

いじめ問題に関する取組みが計画通りに進んでいるかどうかのチェックや見直しを行います。

### 目標設定のしかた

いじめは、その有無や多寡のみによって評価されるものではありません。日頃の生徒理解や未然防止、早期解決ができたかどうかの評価されるような目標設定を行います。

### 評価のしかたと改善

目標に対する具体的な取組みや達成状況を評価し、その評価結果を踏まえて改善に取り組みます。

### いじめ対策委員会による評価

いじめ防止やいじめに対する対応の取組みの検証を行い、必要に応じて方針の見直しをします。

## 10 おわりに

本校では生徒同士がお互いに協力し合って落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っています。

今回のいじめ基本方針の改訂にあたり、本校の特色を活かしながら、これまで以上に生徒が生き生きといじめのない安全な学校生活を過ごせるよう、学校をあげてのいじめ対策に取り組んでいきます。

(平成26年4月23日 策定)

(平成27年3月26日 改訂)

(平成30年3月27日 一部改訂)